



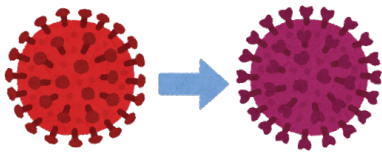
新年に寄せて

病院長 長倉 和彦



新年あけましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルス感染症に明け暮れた1年となりました。大きな感染第7波が下火になったばかりでしたが、秋になって第8波となってしまいました。現在のオミクロン株は病原性が以前ほど強くないため、重症化することは少ないですが、極めて強い感染力であつという間に感染が拡大します。この陽和会だよりが発刊される1月には、さらに新しい変異株に置き換わると言われていま



変異株に置き換わるのでさらに注意が必要です

す。ワクチン接種も継続的に行っていますが、繰り返す新たな変異株の出現についていくのはとても困難です。現在新型コロナウイルス感染症は二類感染症として治療や報告が厳しく管理されています。そのため、一人の感染者が出るたびに膨大な手間がかかります。世界的に見れば、新型コロナウイルス感染症は風邪などのように一般感染症の扱いとなってきています。日本でもより緩やかな管理対象とすることを検討はしていますが、新たな決定はなされていません。当面は手間のかかる感染症であることに変わりなさそうです。集会や旅行等の行動制限は緩和されてはいますが、まだまだ十分な注意が必要な状況に変わりありません。

病院の出来事としては、昨11月に病院機能評価機構の4回目の審査を受けました。本来は5年ごとで、2021年の春に受審予定

でしたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延や院内クラスター発生のため、再三延期となっていました。日々の診療やコロナ対策などに追われ、十分な準備ができませんでした。職員の努力のお陰で無事二日間の審査を終えることができました。現在の病院機能審査は、適切な診断と説明、患者様と協力しての治療方針決定、治療後の適切な経過観察、説明、看護のありかたなど一連の診療行為に加えて、災害や感染流行への事前対策、病院としての運営理念、適切な施設、経営と管理、将来へのビジョン、病院活動の広報、職員への心身の管理、職員研修の方針等々、極めて多岐に亘ります。受審結果はまだ出ていませんが、これからも認定病院としての機能を維持できるよう職員一同努力を続けたいと思います。

昨年の世界の出来事で、2月のロシア軍のウクライナ侵攻には驚きを禁じ得ませんでした。さまざまな事情背景があるから起きたことなのでしょうが、独裁国家でなければこ



のような一方的な戦争はしないものと思います。世界中からの圧力もあるでしょうし、早期に終焉を迎えるものと思っていましたが、10か月経過しても終わる気配がありません。その影響もあって、日本を始め世界中の国が防衛力、軍事力の増強に力を注いでいます。ウクライナの地に1日も早く平穏なときが戻ることを心から願いたいと思います。

